柳川市民文化会館（仮称）基本計画より抜粋

Ⅲ　施設計画

1　施設整備の考え方

市民文化会館（仮称）の整備に当たっては、次の項目に配慮することとします。

(1) 周辺環境との調和

掘割の景観との調和を意識した施設整備を行います。また、どんこ舟からの見え方にも配慮した建物デザインとなるよう配慮します。さらに、隣接する掘割及び遊歩道につながる形で緑地や広場を設けるなど、柳川らしい水辺を生かした癒しの空間となるよう計画します。

(2) 誰もが利用しやすい施設

施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン、サインなどの案内表示などに配慮し、障害者や子ども、高齢者にも来館しやすく、使いやすい建物となるように計画します。

また、来館者の車、搬入車両などの動線を充分に検討し、可能なかぎり車と歩行者の動線を分離し、安全に来館できる計画とします。

あわせて、どんこ舟の船着場を設けることで、掘割沿いの遊歩道の散策者とどんこ舟での来館者の動線も考慮したつくりとします。

(3) 周辺への配慮

敷地南側には、専門学校や病院、民家があります。そのため、周辺住民や周辺施設に対しての騒音にも配慮した計画とします。

また、車移動が市民の交通手段の中心となっている現状を踏まえると公演時に多数の車両が集中することが想定されます。そのため、敷地内及び周辺施設との連携などにより十分な駐車場を確保するとともに、敷地への進入路の工夫などにより、周辺の交通渋滞にも配慮した計画とします。

(4) 環境への配慮

省エネルギー、省資源に努めるとともに、再生可能エネルギーの活用も検討し、環境に配慮した計画とします。

(5) 機能性とランニングコスト低減への配慮

機能性を重視するとともに、維持管理の容易な施設造りを目指します。

あわせて、可能な限り機能の共用化を図るなど、できるだけコンパクトなつくりとし、ランニングコストの低減を図る計画を行います。

(6) 既存施設との機能連携・分担

市内にあるホール機能を備えた文化関連施設（水の郷、大和・三橋公民館、あめんぼセンター）やコミュニティセンターとの機能連携・分担を前提とします。

特に、「水の郷」は建設予定地から徒歩５分程度と近いことから、既に備えている諸室や機能と重複しない計画とします。

(7) 防災機能

現市民会館は災害時に住民が自主避難する「第 1 次避難施設」に位置付けています。新しい市民文化会館（仮称）を第 1 次避難所として指定する場合には、一時的な避難所として使用できる施設計画や管理運営方法、さらには最低限の設備機能を維持・稼働させることができる設備機器の設置、機械室の配置などを検討します。

2 施設の構成

市民文化会館（仮称）は、以下の機能をもった施設とします。

- 大ホール系機能
- イベントホール系機能
- 展示ギャラリー系機能
- 創造支援系機能
- 交流系機能
- 管理運営系機能

(1) 大ホール系機能

身近な場所で優れた文化芸術を鑑賞する機能を備える一方、市民の文化創造活動の実践の場所として、市民が使いやすい大ホールとします。

また、文化に親しみを持ち、楽しむ人を増やしていくために、市民の鑑賞と発表の場として、様々な演目に高水準で対応できる規模と設備を有し、音響的にも優れたホールとします。さらに、大規模な催しから、小規模な催しまで、様々な利用に対応できることに加え、美術展などの

展示会も開催することができる可変型ホールとします。

可変型ホールは、どのようにホールを使うかも、自分たちで考えることができます。演目に合わせた使いやすいサイズでの利用、稽古や練習、制作の場としても使うことができます。

あわせて、客席後方の壁を開放し、ホワイエ、外部との連携が出来るようにします。

① 客席

客席数は800席程度、1階席と2階席で構成された段床の客席としますが、1階席部分は、空気浮上式可動ワゴンで椅子を移動させることで演目に応じて客席の観客とステージ上の演者との適切な距離を保つことができ、ホール全体の一体感を醸成します。さらに座席をすべて移動することで生まれる平な床面（平土間）での練習や展示利用などもできるホールとします。

1階席のみを使用する中規模ホール（500席程度）、前方客席部分を舞台として利用する小規模ホール（350席程度）といった様々なサイズでの利用を想定します。

車椅子席や親子室などを設置し、だれもが舞台を楽しめるよう配慮します。

基本設定の段床の観客席は、舞台がよく見える配置とし、ホールにおける臨場感を観客相互が共有できる空間を目指します。

また、客席は、ゆとりのあるサイズ、配置に配慮します。

なお、現市民会館の大ホールは1012席ですが、新しいホールは鑑賞事業よりも市民利用を中心とした使い勝手のよいホールとすること、現市民会館の狭隘な客席を踏まえ快適でゆとりのある客席スペースを確保することなどを基に検討した結果、800席程度としています。

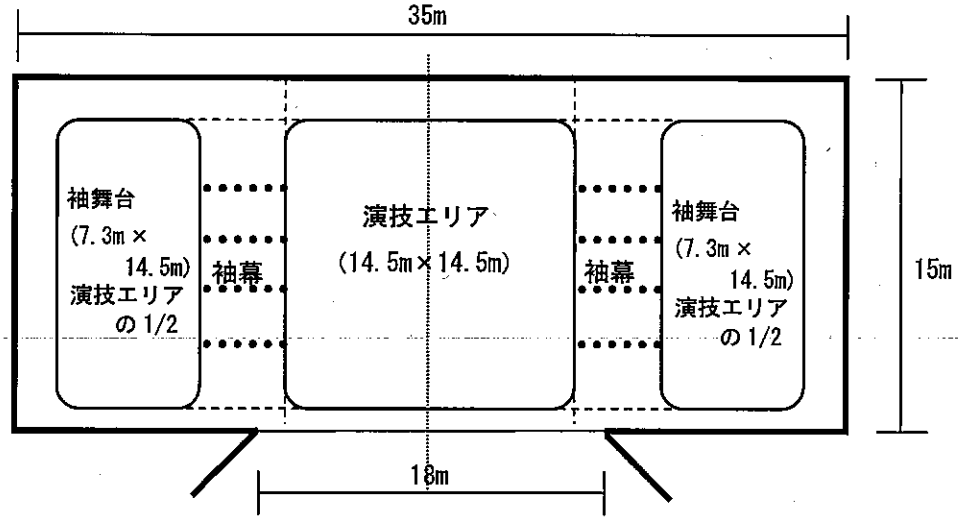
② 舞台

現市民会館で問題となっている舞台奥行や袖の狭さを解消し、様々な公演が可能となる、十分なサイズの舞台を設けます。

また、舞台には、音響反射板を設置し、観客への音響と演奏者自身への音響に配慮します。

・演技エリア：幅 14.5m（8 間）、奥行 14.5m（8 間）程度
・舞台面積：上手、下手袖舞台の合計が演技エリアと同等程度
・舞台開口：間口 18m（10 間）→クラシックコンサート時
　　間口 14.4m(8 間）→舞台芸術時
　　高さ 9m 以上　→クラシックコンサート対応の高さと舞台芸術時の最高高さ９ｍを考慮し決定する

・想定舞台面積



③　ホワイエ（大ホール利用者の待ち合い、休憩スペース）

１階席後方のホワイエは、ホール客席部の後壁を大きく開き、ホールと一体利用ができるように検討します。美術展などの際には、ホワイエも展示スペースの一部として利用できる設えとします。

トイレは法定個数を満たすのみでなく、女性用の数を十分に設け、子どもも利用しやすいトイレとします。

また、多目的トイレは、車椅子利用者や障害者の方が優先的に利用できるよう配慮します。

④　楽屋、搬入口、倉庫

Ⓐ　楽屋

現市民会館では楽屋が不足していたため、市民文化会館(仮称)では、通常の利用に十分な大きさや数の楽屋を配置します。楽屋のうち１室は、本番前に音出しのできる遮音に配慮した設えとします。

さらに、イベントホールの楽屋、会議室や練習室を臨時楽屋として使用できるよう、設備、動線についても検討します。

また、ホールの利用のない時には、楽屋を会議室や練習室として利用することが可能な配置とします。

小楽屋（２室）：1～3 人用
中楽屋（２室）：6～8 人用
大楽屋（２室）：20 人程度

Ⓑ　搬入口・荷捌き

舞台への道具の搬入は、大型搬入車両からの道具の積みおろし、舞台への搬入が容易にできるよう計画します。

また、雨天の際に雨に濡れることのないように庇を設けるなどの配慮を行います。

Ⓒ　倉庫

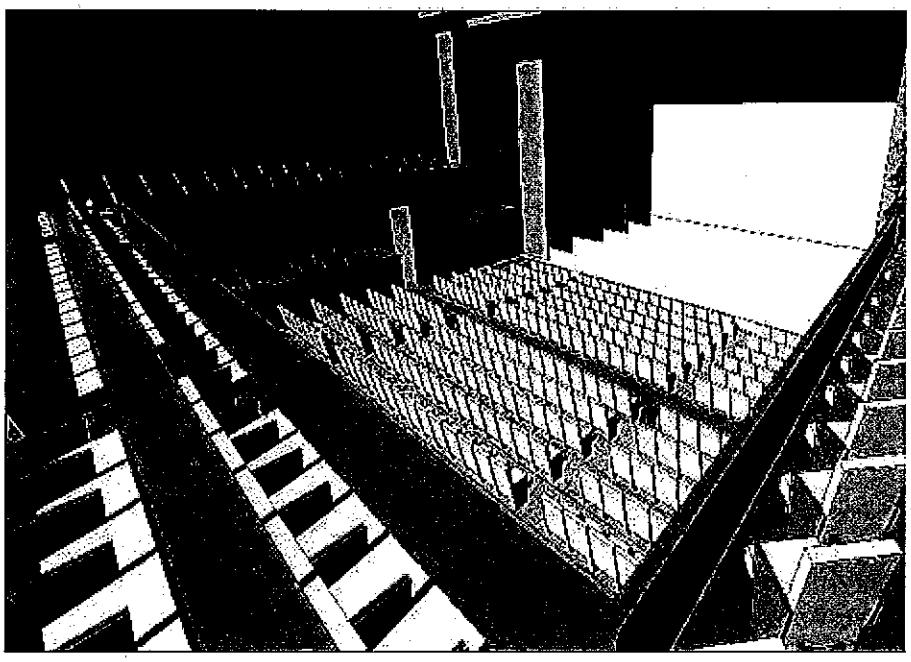
舞台関連の多種多様な道具・備品類を収納できる十分な倉庫を配置し、道具・備品類の移動動線にも配慮します。

ピアノ用倉庫などの温湿度管理の必要な倉庫は、空調にも配慮した計画とします。

Ⓓ　その他

出演者の出待用ロビースペース、楽屋用トイレ、主催者事務室、スタッフ控室などの必要諸室を配置します。

[※大ホール内観 イメージ図]



[プロセニアム形式]

[大ホール系機能　概算面積]

	区　分	室　名	備　　考	面積集計
1	客席関係	客席	(1階移動600席程度)	650
			(2階固定200席程度)	
		多目的観覧室(親子室)	多目的観覧室(親子室)	
		移動席収納	20m×2.5m	
2	ホワイエ関係	ホワイエ	観客がくつろげる空間とする	430
		主催者事務室	主催者が使用	
		ホワイエ備品庫		
		客用便所	十分な数を設ける	
3	舞台及び舞台裏	舞台	奥行15m(8間)×巾35m　PW=18m(10間)	700
		照明・音響制御盤室		
		舞台機構制御盤室	(スノコに設置)	
		搬入・荷捌き	トラックは屋外駐車	
		倉庫		
		ピアノ・楽器庫		
4	技術諸室	調光操作室		70
		音響調整室		
		投映室		
		ﾌﾛﾝﾄｻｲﾄﾞ	(面積計上なし)	
		ｼｰﾘﾝｸﾞｽﾎﾟｯﾄ	(面積計上なし)	
		ﾌｫﾛｰｽﾎﾟｯﾄ室		
5	楽屋関係	小楽屋	1室当り1～3人収容	300
		中楽屋	1室当り6～8人収容	
		大楽屋	1室当り20人収容	
		楽屋ロビー	舞台と楽屋の間に配置	
		楽屋事務所	楽屋通用口に配置	
		楽屋便所・シャワー		
		楽屋備品倉庫		
		給湯室、洗濯室		
6	共用部分	通路、ダクトスペース等		650
			小　　計	2,800

(2) イベントホール系機能

① イベントホール

市民の日常的な練習のほか、小規模な発表やリハーサルにも利用できる平土間形式のホールとします。

平土間のイベントホールは、小規模な鑑賞会、発表会、日常的な練習、作品の制作などに利用出来るのみでなく、大ホールのリハーサル室としても利用できます。

また、クラシックの生音に配慮した内装計画を行ない、小規模なコンサート、発表会に適した室内音響となるよう配慮します。

配置は、大ホールでの本番前の音出しなどが容易に利用できるよう、大ホール舞台との動線を確保します。

客席は自由なレイアウトに対応できる移動席とします。

舞台は仮設とし、自由な位置に設営できるものとします。

舞台設備は、様々な使い勝手に対応できるフレキシブルな設備とします。

② 楽屋、搬入口、倉庫

Ⓐ 楽屋

イベントホール用の楽屋を配置します。楽屋が不足した場合は、大ホールの楽屋を利用することのできる配置、設備とします。

小楽屋（２室）：1～3 人用

大楽屋（１室）：20 人程度

Ⓑ 搬入口・荷捌き

ホールへの道具の搬入は、大型搬入車両からの道具の積みおろし、舞台への搬入が容易にできるよう計画します。

また、雨天の際に雨に濡れないよう、庇も設けるなどの配慮を行います。

Ⓒ 倉庫

平土間ホールでの多様な用途に対応する備品類を収納できる、十分な倉庫を配置し、備品類の移動動線にも配慮します。

Ⓓ その他

出演者の楽屋ロビースペース、楽屋用トイレ、スタッフ控室などの必要諸室を配置します。

[イベントホール系機能　概算面積]

	区　分	室　名	備　　考	面積集計
1	ホール	ホール	客席数200席程度　約8間×9.5間(舞台部含む)	250
2	ホワイエ関係	ホワイエ	(共用ロビー利用)	10
		ホワイエ備品庫		
		客用便所	(共用ロビーのトイレを兼用)	
3	舞台裏	制御盤室	照明・音響・機構	70
		搬入・荷捌き	(トラックは屋外駐車)	
		倉庫		
4	技術諸室	調光・音響操作室		15
		ﾌﾛﾝﾄｻｲﾄﾞ	(ｷｬｯﾄｳｫｰｸ利用)	
		ｼｰﾘﾝｸﾞｽﾎﾟｯﾄ	(ｷｬｯﾄｳｫｰｸ利用)	
		ﾌｫﾛｰｽﾎﾟｯﾄ室	(照明操作より)	
5	楽屋関係	小楽屋	1室当り1～3人収容	165
		大楽屋	1室当り20人収容	
		スタッフ控室	主催者用/上演団体用	
		楽屋ロビー	舞台と楽屋の間に配置	
		楽屋便所		
		楽屋備品倉庫		
		給湯室		
6	共用部分	通路、ダクトスペース等		150
			小　　計	660

(3) 展示ギャラリー系機能

市民の作品発表の場として、展示ギャラリーを配置します。

大規模展示の際には、大ホール、イベントホール、ホワイエ、ロビーなどのスペースと連動して、展示スペースを確保します。

[展示ギャラリー系機能　概算面積]

	区　分	室　名	備　　考	面積集計
1	ギャラリー	展示ギャラリー	市民ギャラリー(約5間×5間)	130
		倉庫		
2	共用部分	通路、ダクトスペース等		40
			小　　計	170

(4) 創造支援系機能

① 練習室

市民の舞台芸術などの日常的な練習の場として、楽器、コーラスなどの練習を想定した防音機能を備えた練習室１室と、ダンス・演劇などに利用できる練習室２室を設けます。

② 創作室

市民の舞台制作活動を支える部屋として、創作室を設けます。大ホール・イベントホールのどちらへも、制作物を移動させやすい配置、搬入動線についても配慮します。

[創造支援系機能　概算面積]

	区　分	室　名	備　　考	面積集計
1	練習室	音楽練習室	30㎡(約3間×3間)×1室	180
		ダンス・演劇	60㎡(約5間×3.5間)×1室 40㎡(約3間×4間)×1室	
		倉庫		
	創作室		40㎡(約3間×4間)×1室	
2	共用部分	通路、ダクトスペース等		50
			小　計	230

(5) 交流系機能

① 共用ロビー

施設全体のエントランスとしての機能をもつとともに、さまざまな情報発信の場となることを目指します。

市民文化会館（仮称）の賑わいを創出するための重要な空間として、ホールで公演などの催し物が行われていない時でも市民が気軽に立ち寄れる場とします。

ロビーの一部に、飲食のスペースが確保できるよう検討します。

② 会議室

貸し出し利用を想定した会議室を設けます。ホールで楽屋が不足した場合は、楽屋として利用できる設えとします。また、ホールでの公演時など、必要に応じて託児室としても使用することも想定します。

③ ミーティングルーム

ホールサポーターや市民団体など、ホール利用者だれでもが利用できる部屋を設けます。

④ 広場

掘割側から施設のロビーやホワイエへ繋がる、立ち寄りやすい広場を設けます。

[交流系機能　概算面積]

	区　分	室　名	用　　途	面積集計
1	共用ロビー			490
	会議室		40㎡(約3間×4間)×1室	
	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾙｰﾑ		20㎡(約2間×3間)×1室	
	トイレ			
2	共用部分	通路、ダクトスペース等		150
			小　計	640

(6) 管理事務室（管理運営系諸室）

管理運営スタッフの執務スペース関連諸室として、貸館受付や施設案内のカウンターを併設する、開かれた事務室とすることを考えます。清掃員控室などを必要に応じ適宜計画します。

① 共用部分・機械室

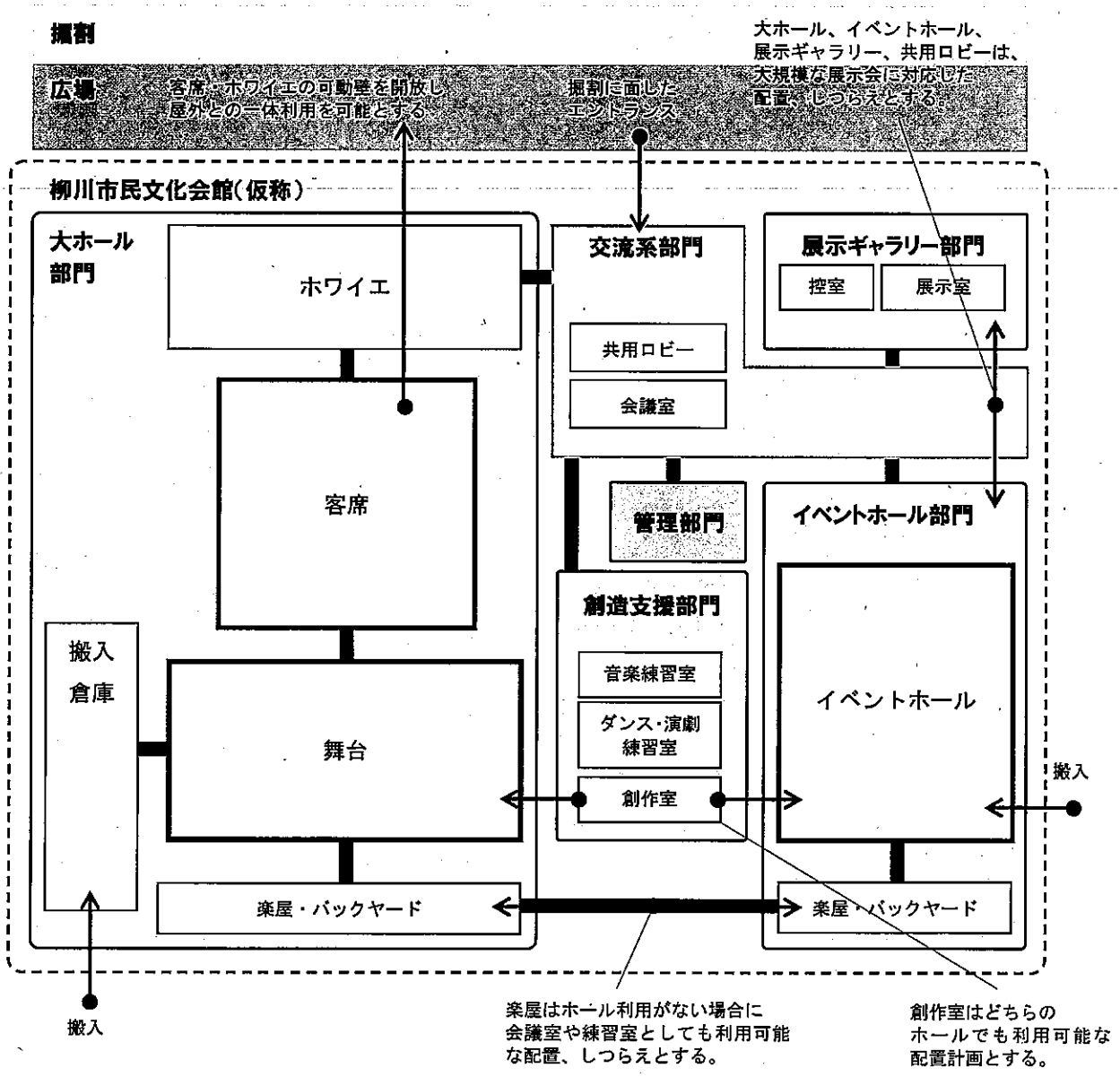
廊下・通路、設備スペース（ダクトスペース、配管スペースなど）の共用部分の面積は、機能部分の面積の約 30%と想定します。

機械室関係の諸室は、延床面積の 15%と想定します。

［管理運営系機能　概算面積］

	区分	室名	用途	面積集計
1	運営事務室	事務室	更衣室等を含む	135
		会議室		
2	清掃員控室			
3	トイレ			
4	共用部分	通路、ダクトスペース等		40
5	機械室関係	機械室、電気室等		825
			小　計	1,000

［※施設機能図］



3　施設の規模及び事業費

各機能諸室の必要面積を算定すると、市民文化会館（仮称）における必要延床面積は、約5,500㎡程度になると想定されます。

大ホール	2,800㎡
イベントホール	660㎡
展示ギャラリー	170㎡
創造支援系諸室	230㎡
交流系諸室	640㎡
管理・運営系諸室	1,000㎡
合　計	5,500㎡

市民文化会館（仮称）整備にかかる事業費（設計費、備品費、建設敷地内の外構工事費を含む。）として、40億円を想定します。

また、財源として合併特例債を活用します。併せて、社会資本整備総合交付金などの交付金・補助金の活用を検討します。

なお、物価の変動により建設にかかる費用が見込みにくい状況です。そのため、今回示した延床面積は、基本・実施設計段階において、諸室の見直しなどにより変更になる場合があります。

4　整備スケジュール

現時点での想定スケジュールは、以下のとおりです。

平成２７年度　基本設計着手
平成２８年度　基本・実施設計
平成２９年度　建設工事(着工)
平成３１年度　建設工事(年度内竣工)
平成３２年度　開館